第 69 回 卒業式 式辞

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。本学で所定の単位を修得され、短期大学士の学位を取得し卒業される皆様に対し、心からの敬意を表し、教職員を代表してお祝い申し上げます。卒業生をこれまで支え、この日を心待ちにされてこられたご家族や関係者の皆様のお慶びもひとしおのことと存じます。謹んでお祝い申し上げます。また、ご来賓の皆様におかれましては、ご多用の中、ご臨席を賜り、式に華を添えていただきましたことに厚くお礼申し上げます。

卒業生の皆様、短期大学での学生生活はいかがだったでしょうか。充実していましたか。勉学に励みましたか。サークル活動やボランティア活動はいかがだったでしょうか。短期大学での生活を振り返ると、友人や先輩、後輩、教職員など多く人たちとの出会いや様々な出来事が思い出されることでしょう。そこには、悲しみや苦しみもあったかもしれませんが、多くの喜びがあったことと思います。

本日、卒業を迎えた皆様は、短期大学での生活に別れを告げ、自らが選択した新たな道を歩むことになります。明るく希望に満ちた未来を思い描いていることでしょう。しかし、そのような時ばかりではないはずです。時には、望みを失い、絶望し、苦しく暗い時を過ごさねばならないこともあるかもしれません。平坦な道だけではなく、時には険しく高い山が、あるいは深い谷が、皆様の行く手を阻むかもしれません。

本学の設立母体である修道会、カナダにあるコングレガシオン・ド・ノートルダムを設立した聖マルグリット・ブールジョワは、１６２０年にフランス・シャンパーニュ地方のトロワに生まれました。１６５３年、カナダに渡り、５年後、モントリオールで最初の学校を開きました。当時のフランスからカナダへの旅は、船での旅です。簡単ではなかったことが容易に想像できます。苦難の連続だったでしょう。それでも、マルグリット・ブールジョワは使命感を持って、志を持って、海を渡りました。そして、学校を開き、その後、教育活動を通して神と隣人への奉仕を目的とするコングレガシオン・ド・ノートルダムを設立しました。聖マルグリット・ブールジョワは、優れた教師であり、カナダでは誰もが知っているシスターであり、聖人であり、建国の母として敬愛されています。

本日、本学から旅立つ卒業生の皆様を待つ海は、凪いでいる時ばかりではなく、荒れて大きな波が皆様に襲いかかることもあるかもしれません。苦しい航海になることがあるかもしれません。そのような時には、ぜひ、聖マルグリット・ブールジョワの使命感を持った、志を持った旅を思い出してください。皆様が、自らが選択した新たな道を、自らが選択した航海を簡単には諦めないでください。

しかし、海が荒れた時や皆様が疲れて航海を続けることが困難になった時には、航海を見合わせることや一時休息することが必要なこともあります。ぜひ、航海の途中で立ち寄ることができる安全で安心できる港を持ってください。皆様の母校である桜の聖母短期大学もその港の一つにしていただければと思います。遠慮なく、必要なときにはいつでも立ち寄ってください。

卒業生の皆様は、これからどのような世界、どのような時代を生きていくことになるのでしょうか。そして、皆様はどうあるべきなのでしょうか。

私たちは今、先行きが不透明で将来の予測が困難な時代に生きています。グローバル化やデジタル化が急速に進展し、また、世界を見渡せば戦争や紛争が繰り返されています。自然災害も後を絶ちません。このように変化が激しく複雑で、なおかつ想定外のことが発生する予測が困難な時代を生き抜くためには、その流れや変化を読み取りながら柔軟に対応し、またスピード感をもって変化していくことが求められます。

一方、先行きが不透明で将来の予測が困難な時代であるからこそ、急速な流れや変化に動じないことも大切であると思います。本学の教育の目的は、カトリックの精神に根ざした人間観・世界観に基づく知的・倫理的見識を養い、豊かな心と深い教養をもって、愛と奉仕に生きる良き社会人を育成することです。これは、建学の精神でもあります。本学は、建学以来、変わらぬ建学の精神に基づいた教育を通して「愛と奉仕に生きる」確かな人材を育成し社会に送り出してきました。ぜひ、卒業生の皆様には、変化を恐れず、現代を生きるために必要な柔軟性を持ちつつ、しかし一方で、変わらぬ「愛と奉仕の精神」を持ち続けていただきたいと思います。

卒業生の皆様、志を忘れずに、使命感を持って、そして「愛と奉仕の精神」を大切にして、自らが選択した道を歩んでください。皆様の航海を楽しんでください。

卒業生の皆様の健康と、皆様の未来が実りの多い豊かなものになることを祈念して、式辞といたします。

2025 年 3 月 8 日

桜の聖母短期大学

学長 坂本真一